

派遣事業に参加させての保護者の思い

「親の思いと子の成長」

本岡 周子(本岡 明音さんの保護者)

「満点の星空に流れ星がいっぱい!!」

目を輝かせながら話し始めた我が子を見て、それまでの心配が一瞬に吹き飛んだ気がしました。

ホームステイ1日目の夕方、ホストファミリーの勧めで国際電話をかけさせてもらった明音の声、切る瞬間、少し寂しそうに聞こえたので、顔を見るまで心配で心配でたまりませんでした。役場からの定期連絡も、「みんな言葉に苦労している」とのことでしたので、“やっぱり中学生が1人でホームステイするのは無理だったのではないか”、“海外派遣事業に中学生では荷が重過ぎるのではないか”など、頭の中を駆け巡る日々を過ごしました。

しかし、ファームでは大好きな動物たちに囲まれて過ごすことができ、盲導犬のパピーウォーカーの話も聞けたり、夜は南十字星や天の川、銀河や人工衛星まではっきり見え、その数の多さに感激したそうです。

ホストファミリーは明るく親切で、とても楽しく過ごさせてもらったようです。決してお金持ちのお宅ではなかったようですが、温かな家族だったと喜んでいました。市内から離れていたため、電車にも乗ったそうで、オーストラリアの生活を体験できて良かったと思います。

言葉も、「知っている単語とジェスチャーや雰囲気ではほとんど通じた」と胸を張って話す娘が、ひとまわり大きく見えた気がしました。

帰国後、ホストファミリーにお礼のメールを送ったり、“必ずもう一度オーストラリアへ行く”と言い出した娘を見て、これが国際交流の始まりなのだと嬉しく思いました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった稲美町の方々に感謝するとともに、これから1人でも多くの子どもたちが世界に目を向けることができますよう希望します。

オーストラリアを訪問したメンバー

- 団 長 藤城 隆夫 (稲美町教育政策部長)
 副 団 長 丸尾 信夫 (稲美町国際交流協会副会長)
 生徒指導 吉村 由子 (稲美中学校教諭)
 事務局長 永田 雅司 (稲美町経営政策部企画課情報グループリーダー)
- 中 学 生 山本 幸貴 藤森 勇作
 澤瀬 貴之 本岡 明音
 大西 愛 井上 智博
 岡田 咲綺 山本 大貴
 古川 明友美 島 奈々子

8日間のスケジュール

- 8月16日(水) 出発
 8月17日(木) 兵庫文化交流センター表敬訪問(パース市)ファームステイ(バンバリー市)
 8月18日(金) スワン市長表敬訪問
 8月19日(土) ホームステイ(スワン市)
 8月20日(日) ホームステイ(スワン市)
 8月21日(月) ガバナースターリン高校体験入学スワン市主催歓迎レセプション
 8月22日(火) パース市内見学
 8月23日(水) 帰国

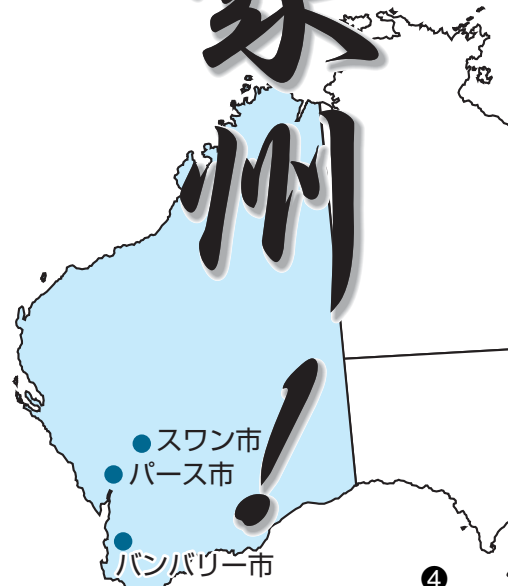


▲ファームの一角に、稲美町の方向に向かって「♡イナミ 2006」という記念看板を立てました。

8月16日から23日まで、稲美町の中学生10人がオーストラリアに派遣されました。派遣生は、日本の文化や生活習慣を見つめなおすとともに、ファームステイ・ホームステイを通じて、人の優しさやあたたかさ、感謝の気持ちを持って帰ってきました。それでは8日間の活動・体験の足跡をお知らせします。

中学生海外派遣事業

いざ豪州!



8/23 帰国



長い飛行機の旅を終え、関空に到着。その後、バスで稲美町へ。

役場では中学生の保護者たちの出迎えがあり、派遣生は親子で顔を合わせた瞬間、やっと帰ってきたことを実感。8日間の派遣事業が終了。

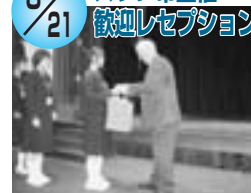
8/22 パース市内見学



本当の家族のように迎え入れてくださったホストともお別れ。

スワン市を後にした一行はパース市内へ移動し、少しの間ショッピングを楽しむ。その後、空路、日本へ。

8/21 スワン市主催歓迎レセプション



我々一行のスワン市訪問を歓迎し、レセプションが催された。

レセプションでは、何度も日本で練習を重ねてきた「御神楽(豊作を祝う民俗舞踊)」と歌を披露し、みなさんから温かな拍手をいただいた。

8/21 ガバナースターリン高校体験入学



写真技術、パーティー料理のセッティング、科学、木工などいくつかの授業を見学。日本にはない科目に派遣生は興味津々。その後、動物園に行き、コアラやウォンバットなど、オーストラリアの動物たちを見学。

8/19・20 ホームステイ



なかなか英語が聞き取れず、また、自分の英語も伝わらない…。そんな状況から勇気を振り絞ってホストファミリーに話し掛ける。単語を並べ、出来る限りのジェスチャーで表現し、言葉の壁を少しずつ乗り越えていった。

8/18 スワン市長表敬訪問



午前中でファームを離れ、一路スワン市へ。派遣事業の目玉とも言えるホームステイの始まり。スワン市ではグレゴリーニ市長にご挨拶をし、ホストファミリーと初対面。緊張の面持ちで自己紹介をする中学生たちの姿が印象的だった。

8/17 ファームステイ



オーストラリアの大自然を車窓から眺め、バンバリー市にあるファームに到着。ファームでは、ニワトリやエミューなどの動物たちの世話を始め、羊の毛刈りなどを見学。また、夜空にちりばめられた満天の星空にみんなで感動。

8/17 兵庫文化交流センター表敬訪問



兵庫県と西オーストラリア州が1981年6月に姉妹提携して今年で25周年。パースには、兵庫県事務所「兵庫文化交流センター」があり、小川雅啓所長に、旅の安全と激励の言葉をいただく。

8/16 出発



いよいよオーストラリアに向けて出発。関空→シンガポール→パースと飛行機を乗り継ぐ。

深夜、パース国際空港に到着。今日の最難関である税関を抜け、オーストラリアの大地を踏みしめた。

両親に、ホストファミリーに、みんなに感謝

身近にあった国際交流

僕は今回、オーストラリア海外派遣事業に参加できて本当によかったです。何故かと言つと、最初は、英語が出来ないことが不安でした。申し込んだ理由も飛行機に乗りたくない、単純なことだったので派遣生に決まった時はなむら不安でした。しかし、6回の事前研修に参加していく毎に、オーストラリアの食について知りたい、自分の英語を向こうで試してみたいという気持ちになりました。出発前に行われた結団式では、オーストラリアの食を知るといのは、目標が変わっていました。そして、出発当日、僕は楽しみ00%だったはずでしたが、いま思ってみると不安で何故か朝はいつもより早く目が覚めてしまいました。でも、初めての飛行機に乗って向こうに行ってみると、そんな不安も消し飛びました。お世話になったホストファミリーの人たちや、全く知らない日本人の僕を受け入れてくれたオーストラリアの人々のおかげで、心配だった英語も楽しいと思えるくらい好きになりました。

また、日本との違いを大きく感じたのは、向こうの人は自分の国をもの凄く大切にしていることです。オーストラリアの兵庫文化交流センターの小川所長さんの話では、まず自分の国の文化をしっかりと身につけて、次に外国の文化を知っていくことが大切だということが残っています。また、国際交流の面を、とても身近な場所で見ることができました。それは、僕らが体験入学したガバナースターリン高校の生徒で、前にソフトバンクホークスにいた城島選手の大ファンがいたことです。以前、日本で試合を見たらしく、学校にはホークスの帽子と城島選手のTシャツをいつも着ていくらしいです。ま

外国への目を養うとともに
足元を見つめ直すことが大切。



まず、日本の文化を身に付け、
次に外国の文化を知っていく。

た、ホストファミリーの友だちのエニーという人が、パナソニックが大好きで、カメラなどの話で盛り上がるなど、さいいなことで日本は世界とつながっているということを感じました。そして、なににより英語が楽しく感じたのはホストファミリーとの生活でした。僕がお世話になった、バクスター家は、犬が21匹、猫3匹、ガチョウ4羽、鶏10羽というスケールの大きい家でした。ここで初めて感じたのは人がフレンドリーというのもありですが、犬も猫もフレンドリーで、すくなついてくれてうれしかったです。ホストファミリーの家での食事は1日目にとっても大きなステーキができて、ここでもスケールの大きさにびっくりさせられました。そして、2日目の晩ご飯は僕がお好み焼きを作って、それまであまり喋らなかつたジョーダンという人も食を通じて仲良くなりました。3日目は、水族館にお母さんのサリーとおばさんのシャロンとホストファミリーに応募してくれたビクトリアと4人で行き、後でシャロンと映画館でパイルツ・オブ・カリヒアンを見ました。4日目はスワン市主催の歓迎レセプションで、出し物の御神楽や歌を歌ったり、スワン市の市議員の人など盛り上がりながら、もの凄く美味い料理を食べました。そして、お別れの日ビクトリアとサリーに見送ってもらいました。ホストファミリーではたくさんのお出をもらえ、新しい家族が増えた最高の4日間でした。

今回のオーストラリアでの経験は、僕の人生の中で二度とない最高の思い出となりました。今回お世話になったホストファミリーの家族には絶対にもう一度会いに行きたいです。こんな、最高の思い出、英語の楽しさを味わえるオーストラリア海外派遣事業に、もっともっといろいろな人に申し込んでもらって行ってほしいです。

澤瀬 貴之 Takayuki Sawase

ホストファミリーは、僕が英文を聞き取れなくて何度も聞き返したのに、あきらめずわかるまで一生懸命話してくれました。日本やオーストラリアについても話し、僕のしどろもどろの説明も真剣に聞いてくれて、とても充実し、楽しいホームステイになりました。

大西 愛 Ai Obnishi

国の文化や言葉が違って、伝えようとする気持ちがあれば仲良くなれることがわかりました。少しずつでも英語で自分から話すことが自分自身の大きな自信となりました。これからはもっと英語を学んでいろいろな思いを伝えられるようになり、またいつかホストファミリーに会いたいです。

岡田 咲綺 Saki Okada

新しいことだらけの生活、1人という不安、この8日間は全てに一生懸命でした。日本を離れ外国で生活してみ、人と人とのふれあいや人の優しさ、温かさがわかった気がします。



古川 明友美 Ayumi Furukawa

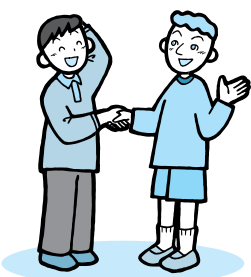
この8日間、私は常に「感謝の心」を忘れずに過ごしました。4日間私の面倒をみてくれたホストファミリーに感謝、8日間引率して下さった方々に感謝、そして今回オーストラリアに行かせてくれた両親へ感謝。

藤森 勇作 Yusaku Fujimori

帰りのバスの中、僕たちの海外派遣は多くの人の支えで成り立っているんだとしみじみ思いました。また、僕も、オーストラリアの人たちのように自分の意思をしっかりと伝えるようになりたいです。そして、僕が育ったこの町を大切にしたい、そう思いました。

本岡 明音 Akane Motooka

英語が分からない時はジェスチャーや雰囲気理解したり、言葉よりも大切な「心」での会話もすることができ、言葉の壁を越えることが出来たと思います。この海外派遣事業に稲美町の代表として参加し、国際交流にどれだけ貢献できたか分かりませんが、私の中でとてもいい経験になりました。



井上 智博 Tomobiro Inoue

最初不安だった英語も案外しゃべれて自分に自信が付きました。日本にない文化、自然、その他、いろいろな体験を通して学ばせてもらいました。またこのような海外派遣があれば、ぜひ参加してみたいです。

山本 大貴 Hirotaka Yamamoto

緊張していて、なかなか自分から話せない初日、そのことに気付いていろいろと質問してくれた僕のホストファミリー。短い間だったけど、わからないことばかりの中で、常に優しく接してくれたホストファミリーの方々にとっても感謝しています。

畠 奈々子 Nanako Hata

この旅を機に、英語や自分自身に自信が付きました。どんなことにもチャレンジして、できないものをできるものに、自分の力で一人前になれるよう頑張ります。一緒に行った方、また、たくさんの協力や応援をしてくださった方に、心から感謝します。